

平成24年度 第2回 温海地域審議会

次 第

日 時 平成24年8月9日（木）
午後3時～
場 所 温海庁舎 6階大会議室

[辞令交付]

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 会長・副会長の選出
5. 報 告
（1）学校適正配置について
6. 協 議
（1）地域審議会協議テーマについて
（2）その他
7. そ の 他
8. 閉 会

温海地域審議会のテーマ設定について

【審議会委員からの提案】

◎日沿道・日東道に関すること

- 日東道全線開通を見据えた観光施策について
- 日沿道県境区間開通までの活性策と温海地域内へのサービスエリア設置活動
- 日本海東北道のあつみ温泉インターまでの開通により、地域管内、各集落で想定しない課題等が発生した。お互い情報交換等連携できるような体制づくり。

◎防災に関すること

- 空家問題について
- 防災対策について
- 有線放送設備改修と防災無線の大規模改修について

◎地域資源の活用に関すること

- 再生可能エネルギーの導入
 - ・森林等豊富な地域資源の活用。木質バイオマスをエネルギー源として開発、活用し、売電も含め、地域の産業振興と雇用の拡大により活性化につながれば。
- 恵まれた自然環境を自信を持って外にPRを。
 - ・観光資源の発掘と特産品の開発を含めて
- 農地保全組合の活用

◎生活・環境に関すること

- 海岸の漂着ゴミ対策について
- 婚活事業について

◎まちづくり・人づくりに関すること

- 地域グループのネットワーク化について
- 集落の活性化について
- 婦人会等団体の活動に対する支援について
- 健康づくりのためのスポーツ振興について

【前審議会のテーマ】

- 地域グループのネットワーク化について
- 日沿道開通の利活用について
- 農林水産業の後継者づくりについて

(22～23 年度)

温海地域審議会協議テーマについて

協議テーマ①	地域グループのネットワーク化について
	観光イベントグループなどの個々の活動を互いに結びつけ、連携することで新たな活力を生み出す方策を検討する。
協議テーマ②	日沿道の利活用について
	平成 23 年度に開通する日沿道には 2 箇所のインターチェンジが整備される。その日沿道を利活用する方策を検討する。
協議テーマ③	農林水産業の後継者づくりについて
	農業・林業・水産業は高齢化が進んでおり、後継者不足が課題になっている。農林水産業の後継者や担い手づくりの方策を検討する。

温海地域集落活性化懇談会のまとめ

【 概 要 】

(平成 22 年度～平成 23 年度)

平成 24 年 8 月

温海庁舎総務企画課

1. 自治会の運営について

(1) 自治会の組織、役員体制について

- ① 役員への負担が大きくなり、事業の持ち方や役員の育成が課題。
- ② 跡継ぎが帰ってくるか大きな課題。帰ってきたときに暮らしやすい集落に。
- ③ 地域の交流の場となってきた学校統廃合が進んだ場合、交流の場の確保は。
- ④ 転出入の情報が入らなくなり会員の把握が大変。

(2) 自治公民館の事業、予算について

- ① 自治会費。一人暮らしの高齢者などから同じようにもらうのは気が重い。
- ② 自治会の事業を見直し、費用を切り詰める。
- ③ コミセン方式と自治公方式の違い。
(例) 温海地域自治会費一ヵ月 5,000 円、旧市内の町内会費 300 円。
※ 運営方法の違いはある。
- ④ 自治会費の未納者が発生。
- ⑤ 自治公民館方式で事業や活動を行ってきた経過がある。
- ⑥ 住民みんなが納得するのであれば、事業を縮小して会費を下げては。
- ⑦ 自治会費についてはそこに住んでいる人たちの問題。要は自治会でみんなが納得するような形の自治会費の算定を考えていけばいい。
- ⑧ 小・中学校、漁港、観光に対する負担金が多い。人数が減少しても同じ。
- ⑨ 有線放送設備の改修について。
- ⑩ 施設の維持経費に閉める予算の割合が増えている。

(3) 自治公民館施設の譲渡について

- ① 譲渡と貸付のメリット・デメリット、判断材料となる数値的な資料が不足。
- ② 譲渡する時はある程度の修繕が必要。
- ③ 自前で整備した公民館と補助で整備されたセンターの維持管理に不公平感。
- ④ 大規模改修予定の取扱いは。

(4) 地縁団体の設立について

- ① 施設の譲渡を受けた場合、建物の登記費用など自治会の負担が生じる。
- ② 後世のために地縁団体の手続きをし、自治会管理の土地をはっきりさせたい。決してセンターの譲渡を受けるためにするものではない。

(5) その他

- ① 配布物の当番など、高齢でできなくなってきている世帯もある。

2. 福祉について

(1) 高齢者に対する支え合い

- ① 集落内での安否確認をどのようにしていくか。
- ② 緊急連絡カードの作成。個人情報保護。どのように把握するか。
- ③ ミニデイ事業を始め、老人クラブが活性化している。
- ④ 高齢者世帯などの雪下ろしが大変だ。
- ⑤ 年金受給日にバスを出してほしいとお願いしたことがある。再度要望したい。
- ⑥ 公民館を利用した集いの場の確保。

(2) 子供に対する支え合い

- ① 見守隊の立ち上げ。
- ② 挨拶のできる子供を目指す。
- ③ 子供の気持ちが分かるよう大人も勉強が必要。
- ④ 子供の遊び場がない。
- ⑤ 通学路の歩道の除雪。
- ⑥ 入学を木に転出する人が増えた。
- ⑦ スポ少が忙しすぎる。
- ⑧ 海や山で遊ばなくなった。

3. 防災対策について

(1) 地震、津波対策について

- ① 避難経路、避難場所の見直し。
- ② 自治会で海拔調査をし、海拔が明記されたマップを作成。
- ③ 地元以外の人が一目で分かるように避難場所等の表示板の作成。
- ④ 災害発生時に住民や要援護者の把握が出来るよう家族カードの作成。
- ⑤ 孤立集落にならないため新たな避難路の確保。
- ⑥ 現在の避難場所も危険区域。
- ⑦ 山や河川の管理、整備をして災害を未然に防ぐ対策。
- ⑧ 若い人たちがいない時の避難、援護の仕方を確認。

(2) 風水害対策について

- ① 指定された避難場所が安全だとは限らない。

(3) 消防団の体制について

- ① OBから何人が再入団した。
- ② 日中団員がいない時の対応が心配。

- ③ 婦人消防団の結成なども考えてはどうか。
- ④ 自主防災のリーダー養成が大事。
- ⑤ 婦人防火クラブの結成を検討。

(4) その他

- ① 防災無線の屋外塔が1箇所なので聞こえない場所がある。
- ② 簡易水道のため消火栓の長時間利用が出来ない。
- ③ 防災無線の個別受信機が聞こえない。
- ④ 災害時の携帯電話がなかなか繋がらない。
- ⑤ 公共施設、学校等の耐震検査、補強。
- ⑥ 消防のホース格納庫を早く整備。

4. 環境対策について

(1) 家庭ゴミについて

- ① ゴミの分別方法が、従来より厳しい判断をされているため少し混乱している。

(2) 海岸の漂着ゴミ等について

- ① ゴミは多くなっている。県へ依頼しても海水浴場が優先となっており、対応してもらえない。
- ② 新潟の大雨により漂着物が流れてきた。

(3) 空き家について

- ① 防災・防犯等の問題があるので、どこに空き家があるのかわかるような資料を提供してほしい。
- ② 親族に連絡しても自治会には関係ないだろと言われる。
- ③ 持ち主とは連絡が取れず困っている。
- ④ 消防に見回りをお願いしていることもあり、自治会に年間1万円を払っている空き家の持ち主もいる。
- ⑤ 市では強制的に撤去等の申し入れ出来ない。温海地域だけで200軒以上ある。

(4) 雪対策について <鶴岡市地域除雪パートナーズ支援事業について>

- ① 除雪機は2地区管内に3台の配備となるが、配備のない集落に必要とした時に、即時に対応できる体制整備が必要。
- ② 導入時の支援だけではなく、運用にかかる人件費、燃料費についても住民負担が増えることからその軽減策が必要。
- ③ 各自治会の要望に応じた機種を除雪機の配備、又は補助制度の検討が必要。

5. 生活・風習について

(1) 祭典、集落行事などについて

- ① 寺や神社関係の事業なども昔から続いて残っているものが多い。
- ② 世帯や人口が減り続ける中で、負担も大きくなってきた。
- ③ 教える人もいなくなり、若い世代の人たちは、何も知らない人が多い。
- ④ 冠婚葬祭に関することや、神社や祭典関係など本当に大切なものは、きちんとした形で次の代へ伝えて残していかなければならない。
- ⑤ 就労形態の変化などにより参加できない人が増えた。祭典の日程を検討していくべきではないか。
- ⑥ 高齢者世帯では行列の役割に応じられない世帯がある。
- ⑦ 助成制度をうまく利用して衣装や備品を購入。

(2) 日常の買い物について

- ① Aコープ等の宅配が利用できる。
- ② 車のない高齢者帯については隣近所で乗せたり、親戚や若い人が運転してくれたりしているので、深刻な問題にはなっていない。
- ③ 日用品や食料品などが集落内で購入できない集落がある。

6. 集落振興について

(1) 集落を元気づけるイベント等について

- ① 事業を継続、発展させていく上で、事業目的の共通認識、事業に取り組む体制が必要。
- ② 特産一霞かぶの振興策として、かぶの葉パウダーの研究や焼畑体験ツアーの取り組みを行っている。
- ③ 集落の若者が主体となって「焼畑体験ツアー」と「かぶ収穫体験」を行なった。若者の積極的な取り組みを評価したい。
- ④ 「温海嶽の会」や「YUKAI」の活動をとおり、地域活性化の一役を担っている。
- ⑤ 観光地として何をすればいいのか？住民皆で「おもてなしの心」を共有できる取り組みができればと思う。
- ⑥ 浜温海海の本松付近から温泉までの間に、カブを植えてはどうか。春に花を咲かせることが目的。
- ⑦ 事業や祭でも誰かがバカになる人がいないと進まない。
- ⑧ 地元で昔から伝わる話がいろいろあるようで、昔話をまとめて集落活性化につなげる方法はないのか。

(2) 集落の活性化について

- ① 集落史を作ろうという話が上がったが、多額の費用がかかるとのことで、作成には至らなかった。若い人がパソコン入力する等で経費の削減を検討している集落もある。
- ② 「終の棲家」とするため、活力のある地域を目指すための対策が必要。
- ③ コミュニティ助成、補助制度を有効に活用すべきと思う。
- ④ 「限界集落」というだけで補助金はあるのか
- ⑤ 郷土史・集落史・写真集の作成。
- ⑥ 住んでいる人がここは良いところだと思わなければ活性化にはつながらない。
- ⑦ 如何にして利益を上げることができるかが活性化。
- ⑧ みんなが知恵を出し合いながら地域の中で利益を上げること考えていくことが大事ではないか。
- ⑨ 漁業後継者は若干増えるのではないかと思われる。魚の調理法を教えれば需要が増えるのでは。
- ⑩ しゃりんは手数料が高いのではないか。そのため販売価格が高くなっている。

(3) その他

- ① 運動会などの地区行事への単独参加が困難。
- ② 携帯電話通信網の整備。災害時や日中の連絡手段としても携帯がつかないと不安。

7. 少年会・婦人会・老人クラブなどの活動について

(1) 少年会

- ① 他市町村との交流事業。集落単独では困難に。

(2) 婦人会

- ① 一生懸命活動するとある程度の年齢になると上がりたくなる。
- ② 婦人は連合会に入っていない。地域の活性化のために活動している。

(3) 老人クラブ

- ① リーダーが不在。
- ② 自治会事業として65歳以上を対象とした会合や研修がない。研修会を企画すれば老人クラブの再結成につながる可能性もある。

8. その他

- ① 中央高校温海校は使用できないのか。福祉施設、体育施設等
- ② 集落の真ん中をJR通っているため、様々な弊害が出ている。
- ③ 卓越した技能を持つ人を登録し観光に役立てられないものか。
- ④ 猿の被害は温海地域全体の問題。このままでは、畑を作る人がいなくなる。
- ⑤ 高速道路の進捗状況について、新潟まではいつ完成するのか。
- ⑥ 結婚しない人が増えている。
- ⑦ 「閉じこもり」「ニート」のような偏った生活をする人が増えた。

学校適正配置について

地域審議会資料

平成24年8月

鶴岡市教育委員会
管理課 学区再編対策室

学校適正配置の取組み状況と今後の進め方について

学校適正配置のこれまでの取組み

- 平成22年8月 鶴岡市学校適正配置検討委員会を設置
 ◇学校配置の適正化及びその実施に必要な事項に関する検討・提言
- 平成23年5月 「鶴岡市における適正な小中学校の学区に関する提言について」の最終報告
 5月 『鶴岡市学校適正配置基本計画』を策定
- 6月～ 学校適正配置地域説明会および個別説明会を開催
 ◇全市を対象に各地域（全中学校区）で開催
 ◇検討対象の小中学校区（14校）で開催
- 11月～ 学校適正配置地域検討委員会を設置
 ◇検討対象地域（8中学校区）において、地域検討委員会を開催
 ◇検討対象小中学校区への懇談会の設置・付託を承認
- 平成24年1月～ 懇談会の開催
 ※地域事情、年代等によっても考え方に差異
 ※学校が無くなることによる地域活力低下への不安 等
- 7月 第2回地域検討委員会の開催

これからの検討の流れ

○ 平成28年度開校に向けた標準的なスケジュール（想定）

- ・～平成26年3月 懇談会、地域検討委員会、説明会等の開催による協議
 懇談会での合意 → 地域検討委員会での合意
 （※H27.4 統合の場合は、H25.9 まで地域合意）
- ・平成26年4月～ 統合準備委員会による協議（2年）
 統合準備事業（1年～2年）
- ・平成27年4月 統合校開校
- ・平成28年4月 統合校開校

● 平成26年4月の開校を想定した場合の主な流れ

- ・平成24年 9月頃までに「統合合意」の決定
 10月～ 学校再編計画の策定（統合対象校、統合時期、位置 等）
 平成25年度カリキュラム、事業計画策定
- 12月～ 学校再編実施計画の策定（実施スケジュール、校名、校歌、校章 等）
 統合準備委員会発足（専門部会を構成して協議）
 例：総務、学校教育、PTA、教育後援会、同窓会部会 など
- ・平成25年 4月～ 統合準備事業
 閉校記念事業実行委員会発足 等
 入学案内、新入学説明会、閉校記念事業、引越し など
- ・平成26年 4月 統合校開校

●鶴岡市学校適正配置基本計画の概要

適正配置の
目指すもの

- 子どもにとって望ましい教育環境の整備を目的とするものであること
- 市内全ての子どもが公平で適正な教育環境を保障されること
- 個に応じた指導が大切にされ、適正な規模の集団の中で学び合い、切磋琢磨して逞しい心が養えること

望ましい
学校規模

- 小学校の学校規模は6学級～24学級とする
中学校の学校規模は3学級～18学級とする
- 1学級あたり15人～20人以上を確保できる規模を目指す
- 複式学級の解消に努める

検討体制

- 計画期間は平成23年度～27年度の5年間
- 検討対象地域ごとに地域検討委員会を設置(懇談会・小委員会を含む)
- 統合校同士での調整課題は統合準備委員会で検討

配慮事項

- 本計画の基準や目標は目安
- 児童数の動向、社会情勢の変化などに即し、計画の見直しも
- 子どもたちへの心のケア、通学対策を適切に講じる
- 施設跡地については、地域の活性化に望ましい活用策を検討

学区再編の方法

学校の統合による

再編を行う範囲

合併旧市町村のエリア内で、中学校区単位とする

目標年次

平成28年4月までの開校を目標。ただし合意が得られた学区は可能な限り早期に実施する

検討対象校と学区

平成28年までに複式学級の編制が想定される14の小学校(8中学校区) ※下図

第二中学校区	
栄小 (42)	
朝陽三小 (641)	
朝陽五小 (414)	
京田小 (87)	

第四中学校区	
湯田川小 (40)	
田川小 (48)	
朝陽三小 (641)	
朝陽四小 (504)	
大泉小 (99)	

第五中学校区	
加茂小 (55)	
湯野浜小 (122)	
大山小 (355)	
西郷小 (130)	

豊浦中学校	
小堅小 (29)	
由良小 (48)	
三瀬小 (74)	

藤島中学校区	
長沼小 (42)	
藤島小 (336)	
東栄小 (109)	
渡前小 (115)	

羽黒中学校区	
羽黒一小 (61)	
羽黒四小 (22)	
羽黒二小 (163)	
羽黒三小 (192)	

朝日中学校区	
朝日大泉小 (13)	
大網小 (15)	
朝日小 (155)	

温海中学校区	
五十川小 (31)	
福栄小 (37)	
山戸小 (19)	
温海小 (157)	
鼠ヶ関小 (117)	

・カッコ内の数値はH24 全校児童数
・太字の学校は複式学級のある学校

■小学校 児童数と学級数の推移(通常学級)

【H24.4.1現在】

	H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
朝陽一小	610	21	570	20	571	20	577	20	567	19	522	18	510	18
朝陽二小	453	18	440	18	420	18	410	17	402	16	400	16	392	15
朝陽三小	641	23	647	23	641	23	661	23	677	24	686	24	684	24
朝陽四小	504	18	511	18	511	18	491	18	474	17	470	17	446	16
朝陽五小	414	15	407	15	389	14	388	14	398	15	404	16	407	16
朝陽六小	805	27	807	27	797	26	742	25	721	25	721	25	700	25
斎小	102	6	103	6	100	6	106	6	113	6	114	6	121	6
黄金小	88	6	82	6	87	6	87	6	90	6	96	6	98	6
湯田川小	40	5	37	4	31	3	31	4	29	4	34	4	32	4
大泉小	99	6	99	6	103	6	101	6	108	6	110	6	111	6
京田小	87	6	92	6	84	6	86	6	93	6	98	6	99	6
栄小	42	5	39	4	34	4	31	4	35	4	36	4	38	4
田川小	48	4	48	5	48	5	40	4	43	4	44	4	44	4
上郷小	118	6	107	6	100	6	103	6	103	6	96	6	94	6
三瀬小	74	6	71	6	73	6	67	6	59	6	53	5	47	5
小堅小	29	4	30	3	27	4	31	4	32	4	30	4	33	4
由良小	48	4	45	5	44	4	39	4	34	4	34	4	36	4
加茂小	55	5	56	4	55	4	52	5	50	5	49	5	53	5
湯野浜小	122	6	118	6	105	6	98	6	99	6	99	6	102	6
大山小	355	13	339	13	332	13	330	13	307	12	308	12	289	12
西郷小	130	6	134	6	121	6	121	6	115	6	110	6	110	6
藤島小	336	14	320	13	293	12	295	12	306	12	295	12	277	11
東栄小	109	6	118	6	108	6	98	6	89	6	90	6	78	6
長沼小	42	4	40	4	44	4	43	4	41	4	45	5	42	4
渡前小	115	6	115	6	125	6	122	6	108	6	102	6	93	6
羽黒第一小	61	5	54	5	56	5	47	4	41	4	51	4	47	4
羽黒第二小	163	6	163	6	165	6	160	6	160	6	155	6	165	6
羽黒第三小	192	6	185	6	193	6	184	6	184	6	181	6	178	6
羽黒第四小	22	3	24	3	27	4	23	3	23	3	23	4	25	3
櫛引東小	99	6	101	6	90	6	81	6	78	6	80	6	86	6
櫛引西小	194	7	192	7	178	6	173	6	176	6	171	6	160	6
櫛引南小	88	6	92	6	85	6	88	6	78	6	76	6	80	6
朝日大泉小	13	3	17	3	16	3	15	3	13	3	16	3	18	3
朝日小	155	6	146	6	156	6	152	6	151	6	145	6	137	6
大網小	15	3	12	3	13	3	15	3	16	3	16	3	16	3
温海小	157	6	148	6	141	6	138	6	127	6	124	6	119	6
五十川小	31	4	32	4	38	4	41	4	39	4	36	4	39	4
鼠ヶ関小	117	6	104	6	92	6	81	6	66	6	59	5	56	5
福栄小	37	4	41	4	40	4	40	4	41	4	41	4	43	4
山戸小	19	3	16	3	20	4	22	4	22	3	21	3	23	3
合計	6,829	314	6,702	310	6,553	307	6,410	304	6,308	301	6,241	301	6,128	296

(網掛け部分) は検討対象校

※24年度は、実際の学級編制による人数(=学級編制表24.3.30)で、特別支援児童は含まない。

※25～29年度は、1年次が「小学校別・年齢別集計(24.4.1)」の数値、2年次以降は前年度よりそのまま進級するものとして算出。

※30年度は、全学年「小学校別・年齢別集計(24.4.1)」の数値より算出。